

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600204
法人名	株式会社ソラスト
事業所名	グループホームソラストひばりが丘
所在地	兵庫県神戸市長田区雲雀ヶ丘1-2-5
自己評価作成日	令和4年11月30日
評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が出来る限り、自らの家でその方らしく生活が送れるように環境を整えています。その為、日中は玄関の施錠などは一切行っておりません。コロナのために外出イベント中止になっていきます。その為、日中はラジオ体操や室内のイベント等できるだけ配慮をしながら利用者の生活のリズムに合わせてケアを行っていることにより職員がその方らしく生活できるように柔軟に対応させていたいただきその方らしく生活して頂きましてその結果ご利用者と職員が共に成長していくようなケアを行っています。その為に必要だと感じた職員はすぐに提案し、必要に応じて用品等の購入もしています。そうすることで利用者職員がよりよい環境作りができると考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和4年12月29日

【優れている点】居室は使いなれたTVや服を持参し自分の部屋と認識していただけるところに努め本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。
 【工夫点】管理者による新体制を整えている。日々の関わりの中で利用者の思いを大切にしユニット会議など活用してよりよい支援の在り方について検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価 第三者	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況			
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご利用者主体のケアを行っていく。」「認知症介護のプロとして、ご利用者に接します。」「ご利用者と一緒に働く職員へ敬意を持って言動します。」「という事業所理念を掲げているがなかなか理解し浸透していただけていない。」	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念に基づき実践しているが職員への理解、浸透が進んでいない。	玄関内や2階事務所前の目立つ場所に事業所理念を掲げ、また職員会議等で事業所理念の唱和等理解、浸透への工夫実践が望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は運営推進会議や地域ケア会議等に参加多くできていたが、今年度はコロナウイルスの影響で地域との繋がりが薄くなり。隣の中学校の特別学級の生徒の作品を寄贈して展示させて頂いている。	現在はコロナ禍で従来運営推進会議や地域ケア会議に参加し事業所自体が地域の一員として日常的に活動していたが現在は隣の中学校の特別学級生徒の作品の寄贈を受け事業所内に展示している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナウイルスの影響があり、認知症の人の理解や支援の方法等を地域の人々に向けて生かす場は減っているが隣の中学校からの理解参加支援ははしていただけである。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響があり、書面・電話にて説明報告のみとなっている。色々活発な意見交換はできずにいる。	2ヶ月毎開催の運営推進会議は本年はコロナ禍で書面・電話の説明報告としている為活発な意見交換ができない状況である。	気づき・アクション報告では、原因報告等も大事だが、事故はヒヤリハット数は今のグラフを作成し事故発生客者に目立つ場所に掲示し、減少に向けた工夫、実践が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神戸市生活保護課のケアワーカーの藤○様とは、定期的に電話連絡をとり訪問していただき金銭面での相談にも乗っていただいている。	市生活保護課の担当に定期的に電話連絡や訪問をしていただき、金銭面の相談等アドバイス受け、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っておらず、会社よりウエアラーニング、身体拘束委員会、月一回の会議等でしっかりと話し合い意見交換し学習例については上司を交えて会議にて身体拘束に当たってはまるかどうか確認している。	会社のウエアラーニング、身体拘束委員会、月1回の会議等で話し合い意見交換をし、アドバイザー等を含めフロア会議で確認し、身体拘束に該当するか検証している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会社よりウエアラーニング等しっかりと学習し毎月の各階のフロア会議時に確認している。職員の言動等にも注意し、その都度指導を行っている。	身体拘束をしないケアと同じく会社のウエアラーニングで虐待防止に向けての検証や話し合い意見交換をし、疑わしい例等毎月のフロア会議時に検証、確認し職員の言動等注意し、都度指導を実施している。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	会社のウエブラーニングで学習している者の制度について理解している職員は少ない。あんしんすこやかセンター等へ繋がってほしい。玄関フロアーにて掲示し意識的に自身から学ぶように促している。	現在後見人活用利用者は1名、ウエブラーニング学習して、日常生活自立支援事業成年後見制度を学ぶ機会を持っている。これらを玄関フロアーに掲示し活用できるように職員各自が学べるようにしている。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せの時点から利用者・家族が個々の持つ不安や疑問等を伺い説明することになり、特めて金銭に係ることなので上司も指示もつかりしている。契約・解約について、管理者が利用者や家族に説明を行い、理解した上で入退去となっている。	契約の締結では問い合わせの時点から利用者・家族の不安や疑問等を努め、特に金銭に係ることは上司の指示により理解・納得を図り、解約等にも管理者が利用者や家族に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の介護計画更新時に家族への意見をお聞きしている。コロナウイルスの影響もあり、近況報告・来訪時、電話などコミュニケーションをはかっている。	運営に関する利用者、家族等への意見の反映では介護計画作成時に家族への意見を聞き反映している。コロナの影響で近況報告は来訪時や電話等でコミュニケーションを行っている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内では、定期的会議・日々の業務中で管理者・法人上部に率直に言えるように働きかけ運営反映できるようにしている。	定期的に会議や日々の業務の中で管理者、法人上部に率直に言えるようにしているが運営反映の具体例はない。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無駄な残業やサービス残業をなくすようにしている。職員一人一人にとって働きやすい環境作りに努めている。しかし、書類が多く管理者の負担が大きくなっている。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には、外部研修参加をしやすい環境を整えており、資格試験受験希望している職員には試験前には勤務調整を行うようにしている。社内のウエブラーニングを推進している。OJTでできるだけ同行にて初めは寄り添うように教育している。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者以外は少ない。しかし、管理者は今後の関係性づくりや心安く問合せができるように努めているし同業者へこちらから積極的に問合せを行っている。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居申し込み時、施設の見学を進動め、利用者の意見・質問をしっかりと聞き、過ごしやすい環境づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずカンファレンスや実調を行うように努め、その中でできる限り課題や不安を解消できるように努め一度ではなかなか分かり合えないが信頼関係が深まるように努めている。 毎月の各階のフロア会議での話し合いや、業務の合間での少しの時間を使いその都度多職種との連携にて電話やメールにて意見を聞くようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションにつとめ、自立支援、残存機能維持に目標を計画を立てて本人や家族様とのコミュニケーションを図り、そのうえでサービス提供に努めることで関係性を構築している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にこちらから積極的にコミュニケーションを図り、ご家族からの支援・協力をしていただけるように信頼関係を築いている。コミュニケーションが足りなければしっかりと振り返り今後に活かしていきたいと思う。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り利用者の馴染みの場所や関係を継続していただけるように支援しているが、コロナウイルスの影響もあり、減っているのが現状である。しかしながら利用者個々の思い出はしっかりと職員間で相互理解している。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から本人の全体像を把握している。コロナ感染の影響で面会を1日1組(2名まで)事前予約で対応している。利用者個々の以前の関係を重要な事と考え、馴染みの人や関係性継続の支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こちらから無理強いをせず、日々の業務の中で利用者同士の関係を把握し、良好な関係を築いていただけるように気ますぐならぬよう職員が間に入り座席配慮しコミュニケーション支援に務めている。		

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、何かあればいつでも連絡できるように伝えるものも時間の経つと関係性は薄くなっていくのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とはコミュニケーションを図り、本人の希望意向など尊重している。困難な場合は、ご本人・ご家族が何を望まれているかを職員同士でしっかりと話し合い考慮して実践している。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその方の真意を推し量ったり、言葉にしづらい思いは、それとなく確認するよう心にかけている。どのように暮らしが最善なの家族を交え職員で検討している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族等に入居前の様子、生活歴、サービス利用の経過情報はもちろん入居前までに住んでいた場所に実際行かせていただき入居後の居住環境に活かしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化をケア記録に記入・申し送り等で職員間で共有している。少しの変化も逃さずどんな小さなことでも管理者に報告し支援経過記録に残している。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング介護計画書作成に関しては、利用者や利用者居室の階の職員に必ず意見を聞いたりし介護計画作成をしています。色々な意見を聞くことでより良いサービスにつながり計画作成に役立つと考えます。	本人がよりよく暮し続けるために、モニタリングを実施し介護計画を作成している。計画は、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、職員間で検討しサービス内容に反映している。歩行状態の変化や食事量の減少など現状に即し職員全員で意見交換し検討する。	自立支援に向けた介護計画作成及び家族への同意を丁寧にお願いいたします。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認定更新時、入院退院時、ご利用者のニーズの変化、様子に変化があった時、日々の変化をケア記録に記入し介護計画の見直しにも活かされている。尚且つ直ぐに管理者に報告し管理者自身も支援経過記録している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者に合わせて、できる限り柔軟に対応している。また必要なものは金銭がかかっても上司や家族様と相談ししっかりと納得のいくものになっている。		

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを築きむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあって、以前から地域資源の活用・関わりは少なかつた。		
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に利用者や家族様と話し合い、相談し、かかりつけ医(往診医)を決めている。もし他の当施設のかかりつけ医以外を希望されても、希望に添えるようにしている。	本人の状況に応じて継続的な医療が受けられるように、本人や家族の同意を得て2か所の往診医で対応している。月2回往診を受け訪問看護師と連携を図り適切な医療につないでいる。整形外科には家族対応となる。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護スタッフと医療連携体制を確立している。また、必要な方には訪問が可能な医療機関に協力して頂き、安定した医療を受けていただけたい体制をとっている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者の状況、注意点を事前に病院に伝え入院生活の安定化を図るよう常に協力をし、生活の援助、利用者の精神的安定の援助を行い、早期退院に努めている。退院時は、現状の把握を行い、病院のボクダ・看護師・地域連携室・ご家族とカンファレンスを行う。	入院する際は、主治医の紹介状でスムーズに医療機関に繋がることができる。本人の普段の状況や特徴など入院目的をいち早くお知らせできている。入院によるダメージを極力防ぐために医療連携室と連携し、家族とも回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。	
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者、ご家族にそれぞれの希望に応じたあり方を模索するためかかりつけ医・看護師・ご家族としっかり話し合い、ご本人の状況の変化に応じて本人にとってより良い環境、対応方法をその都度相談していく。	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか確認し、事業所が対応し得る最大のケアについて入居時には説明をしている。看取りの時を迎えた時は、主治医の指示のもと安心して納得した最期を迎えられよう意思確認しながら職員全員で取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌ててしまう職員もいるが、事務所内の研修等でも対応方法を伝えている。急変時には管理者がすぐに駆け付けけるような体制を整えている。		
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、避難経路などの確認も行っている。消防署ヨリのアドバイスにて施設から高齢者を連れて逃げるよりも、消防に通報して施設内での一番安全な場所に待機しておくほうが好ましいといわれる。	年2回避難訓練を実施し、避難経路等の確認を行っている。立地環境から消防署ヨリアドバイスを受け施設から出る避難ヨリ消防へ通報し、施設内で一番安全な場所に待機する方を推奨されている。	

自己評価 第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>尊厳の保持については研修等で行ってはいるが、忙しい時にどうしても言葉が悪くなってしまふ時が見受けられる。都度、声掛けや言動に注意するようにはしています。自分の親を介護するような気持ちでかいてくれるようにアドバイスをしています。</p> <p>出来る限り利用者が自己決定できるように声掛けを行うよう努めているが、できないときにはアセスメントをもとに代替案を一緒に考え信頼関係を築くように努める。</p>	<p>職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者のプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向けた事業所として取り組んでいる。利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にするため年間計画に取入れ学が機会としている。</p>	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>出来る限り利用者の希望や要望に沿えるようなしえんをしているが、職員の人員的な問題などがあるのが現状である。その中でも工夫して色々なイベントを行っている。</p>		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>衣類はご利用者本人に選んでいただき、これまでにごその方の嗜好をふまえ、お持ち私服に合わせて組み合わせて配慮している。派手な色でもコーディネート提案し多彩な刺激によって若返り効果もありご本人様に任せている。</p>		
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	<p>食事形態や内容については出きる限り配慮している。手伝っていただけられる利用者様には職員より声掛けを行い見守りをおこなっている。イベントによって普段食べないものも召し上がっていただくように配慮しています。</p>	<p>食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。配食弁当など取り入れご飯、みそ汁は事業所で作る。朝食は希望でパン食で提供。誕生日にはケーキ購入している。四季折々の行事に合わせちらし寿司やクリスマスにはオーブンを取り寄せるなど食事を楽しみでの活動としている。</p>	
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>好きなものを好みに食べていただくことが大切と考えている。手伝っていただけられる利用者様には職員より声掛けを行い見守りをおこなっている。イベントによって普段食べないものも召し上がっていただくように配慮しています。</p>		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>毎食後ご利用者の自立度、希望、口腔の状態に応じて対応し、利用者がご自分でできる場合は声掛けを行い、必要な方は介助している。口腔内の清潔保持は誤嚥性肺炎予防になるとの認識のもと行っているまた、必要に応じて訪問歯科や医療機関へ相談している。</p>		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>毎食後ご利用者の自立度、希望、口腔の状態に応じて対応し、利用者がご自分でできる場合は声掛けを行い、必要な方は介助している。口腔内の清潔保持は誤嚥性肺炎予防になるとの認識のもと行っているまた、必要に応じて訪問歯科や医療機関へ相談している。</p>		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に合わせ、本人のニーズ、尿意、便意、習慣、パターンを考慮し個々に対応している。排泄の様子に変化がある場合など要因把握に努めている。尊厳を大切に考えた声掛けを行っている。	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたくない」にトイレに行くことができる。1よう、本人の生活リズムにそった支援に努めている。一人ひとりのサインを全職員が把握しトイレでの排泄を大切にしながら、紙ハンズなど本人に合わせ検討している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のために、飲食物の工夫や朝食にヨーグルトを提供するように薬以外の方法も試している。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に応じて、利用者の体調、その他の変化があるときには本人と相談の上、休息や、就寝を勧める。医療的にも昼夜逆転しないように心がけている	週2回入浴していただいている。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。重度化に伴いシャワー浴での対応など福祉用具を有効活用し個々にそった支援をしている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、利用者の体調、その他の変化があるときには本人と相談の上、休息や、就寝を勧める。医療的にも昼夜逆転しないように心がけている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体がある程度の薬の内容に把握できているが注意事項については申し送りにて全職員で情報共有を行っている。医療的にも昼夜逆転しないように心がけている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方らしく生活していただくように努めておりその方に嗜好に合った話題を提供するようにつとめています。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもあり、中々外出ができていない。洗濯干し場には段差があるので注意しながら外に出で頂くこともある。	ひとり一人の楽しみや習慣に合わせ日常的な外出支援を展開している。コロナ禍のため外食など行えないこともある。しかし車中ドライブでお花見に出かけたり、近隣への散歩など希望を聞きながら少しでも外気に触れる機会を設けている。DVD体操やペラソダでの気分転換など室内での活動なども工夫している。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所内で金銭管理を行っています。必要であれば金庫内から出金している。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍でご家族に会えない日々が続いているが、その分電話で話す機会は増えている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の空間は、利用者やご家族・職員が出来る限り心地よく過ごせるようにレイアウトを考え、整備等も随時行っている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激が無いように配慮し、生活感や季節感を壁等に貼り居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に利用者が共有のリビングで過ごされていることが多いが、利用者の性格的に治って席を分けたりしている。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものを持参していただけるように依頼しなるべく今までの生活空間を再現し自分の部屋と認識していただくように努め新品を購入時はご本人の希望に合わせる。	居室は使い慣れたTVや服を持参し自分の部屋と認識していただけるように努め本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ利用者の動線を考え、適時配置換えを行っている。生活して過ごしやすいようにいろいろな工夫に努めている。			